

弔 辞

○○○さん、あなたは年が明けしばらくして、かなり快方に向かつておられたとのことでしたので一度お見舞い伺おうと思つておりました矢先、このような訃報に接したただ驚くばかりで、申しあげるべき言葉もありません。

今こうして、あなたの遺影の前に立つておりますと豪放磊落で、病気など一息で吹き飛ばしてしまいそうな大きな声で「やあ、○○○さん……」と今にも

はなしかけてこられるような気がして、あなたが帰らぬ人となられたとはとてもしんじられません。

永年苦楽を共にしてこられた奥さまをはじめご遺族のご心情と従業員の皆様方の深い悲しみをお察しいたしますと、あらためて言い知れぬ寂しさと悲しさがこみあげてまいります。

かえりみますと○○○工業さん、私ども○○○工業との結びつきは遠く昭和二十八年にさかのぼります。当時あなたは若くして家業を継がれ木材業にたずさわつておられました。私どもの○○○もまさに海のものとも山のものともわからない時期でありますたが何かと国産車を完成させようと意気に燃えておりました。○○○さんはその意気に感じて、一緒に車造りをやろうと○○○への積極的な協力体制をしかれたのであります。

当時の想い出話として伺つておりますところでは、○○○が○○市に初めて工場を建設するとき○○○とともにその土地の下見をさせたり、○○○の○○○社長と一緒に山へ木材を見に行かれたときいております。こうした中でトラックのボディ材として最近まで広く使われております南洋材のアピトンをご苦心の末開発されましたのはじめ、ハードボードを中心とした内装部品の調達など四十数年の長きにわたり本当に誠意のこもつたご協力を賜り、心から感謝いたしております。

伊勢湾台風の折には当社への納入を確保するため文字通り東奔西走され、スムーズな部品供給のため誠心誠意ご尽力をいたいた時など、あなたの責任感の強さに全く敬服いたしました。又、この台風で流された木材が周辺地域に被害を与えたと聞くや取るのももとりあえず、お見舞い品を持つて一軒一軒おわびに回るなど大変人間味にあふれる方でもありました。さらに私が○○○に入社する前、○○○のすすめもあり数ヶ月にわたり木材の勉強におじやましたことがあります、その時本当に親身になつてご指導いただきましたことが昨日の事のように懐かしく想い出されます。

あなたは、月に一度は必ず京都のお寺にお参りされ、従業員やそのご家族の方々のお人柄によりあなたは従業員はもとより取引先の皆様からも慕われ、敬愛され、今日見られる家族的な雰囲気の暖かい社風をおつくりになられもしました。

一昨年十一月、創立七十周年をお迎えになつた時「これからは息子達の時代であり、経営の近代化をめざし会長という大きな立場で新体制をバックアップして、新たなる飛躍のためさらにひと頑張りしたい」とおっしゃつておられました。

新生、○○○がやつと緒についたばかりの大好きな時に○○の文字通りの大黒柱を失つたことは私どもにとりましても本当に残念でなりません。しかしながら、あなたが手塩にかけて育てあげられましたご子息○○社長、○○専務をはじめ優れた後継者の方々は、あなたのご遺志を立派に受け継がれ会社をさらに発展させていかれることと信じております。

私たちも、あなたのご恩に報いるためにも○○さんの将来の発展のため、できる限りの協力をさせていただくつもりでおります。

○平成○○年○月○日

○取締役副社長 ○○○



東海典礼